

派遣報告書（報告者；中屋敷 大）

大会名	第45回九州ブロック大会バスケットボール競技大会
開催地	長崎県
日 時	令和 7年 8月30日（土）～ 31日（日）
担当ゲーム1	（成年女子）熊本（熊本） vs 鹿児島（鹿児島）
相手審判	CC：比嘉 涼太（沖縄） U1：中屋敷 大（大分） U2:牧野 景介（福岡）
（担当ゲーム1）Pre-Game Conference	
・チーム情報の確認 ・TOとのアイコンタクトをとって処置ミスゼロに繋げる ・ヘルプディフェンダーのプライマリの確認 ・2or3のヘルプ ・コフィンコーナーでのメカニクスの確認	
（担当ゲーム1）Post-Game Conference	
・アイコンタクトをとりながらスムーズなゲーム運営ができた ・テンポセットとしてイリーガルな手への判定を積極的にできた。 ・PGCでの打ち合わせ通り2or3のヘルプやコフィンコーナーへのアジャストはクルーとしてスムーズにできた。 ・クリーンザペイントの考えでもう少し3秒やりバウンド時の腕の絡みなど笛を入れたほうが良いケースがいくつかあった。	

担当ゲーム2	（成年男子）佐賀（佐賀） vs 長崎（長崎）
相手審判	CC：比嘉 涼太（沖縄） U1：中屋敷 大（大分） U2:牧野 景介（福岡）
（担当ゲーム1）Pre-Game Conference	
・チーム情報の確認 ・2試合目と1試合目のチームなので立ち上がりの状態をしっかりと見極める ・シンプルなコールを心がける ・ボールマンスクリーンへの目の当て方の確認	
（担当ゲーム1）Post-Game Conference	
・立ち上がり疲労感などもあり、あまりテンポセットする場面がなかった。2Qからセイムケース、セイムコールの観点から漏れがあり、ベンチへの不信感が高まった。リードから見えにくいケースにセカンダリーやサードのレフェリーがどうアジャストすればよかったのかを映像を見て確認した。 ・UFの直後TFがあり、スムーズな再開ができた点はクルーとして良かった。レポートの見せ方には工夫が必要であった。 ・ゲームコントロールを意識しすぎて軽い現象にコールをしてしまい、基準がブレる場面があった。	

担当ゲーム3	（少年男子）宮崎（宮崎） vs 佐賀（佐賀）
相手審判	CC：中屋敷 大（大分） U1：比嘉 涼太（沖縄） U2:藪崎 康平（熊本）
（担当ゲーム1）Pre-Game Conference	
・昨日までの成年とは違い、コンタクトの質などを考えシンプルな判定	

- ・処置ミスゼロに向けたアイコンタクトやクルーで情報共有
- ・OFは1対1が中心になるだろうからレフェリーDFを意識したポジションアジャスト

(担当ゲーム1) Post-Game Conference

- ・序盤に腕へのテンポセットは3人で示すことができた。
- ・ベンチからのトラベリングのアピールには3人で共通見解を持ち一貫した判定基準を持ちながら、ベンチともコミュニケーションを取ることができた。
- ・クリーンアウトが本当に全てノーコールだったが、イリーガルなものもあったので判定をするべきであった。Lがプライマリではあるが、Tがビックピクチャーとしてどう捉えたのかなどの見解をもっておく。

今大会に参加しての感想など

今回の大会は、A級更新講習も兼ねた研修の場であった。3人で協力すること、相手の考えを尊重することを意識したレフェリングに心がけた。情報共有のためのコミュニケーションが活発にでき、アイコンタクトもしっかりすることができた。しかし、スピードアジャスターとしてゲームをスムーズに運営することができなかった。タイムアウト明けや、リスタートなどの声掛けやコーチへの協力の促し方などは工夫が必要だと感じた。また、ゲームコントロールを意識しすぎるがあまり、マージナルなものを判定したり、同じケースの判定をこぼしたりする場面があった。クルーが吹いたものやクルーのメンタル、選手のインテンシティなどをこちらがどう感じ取るかを、もっと意識しないといけないと感じた。今回講師の方からキープレイヤー（感情の起伏が激しいプレイヤー）のコントロールをどうするべきか。早めの基準作り、それをブレずに判定する毅然とする気持ちが必要という話をされ、今後の課題になると考えた。

今回、派遣してくださった大分県バスケットボール協会の皆様、審判委員会の方々へ深く感謝し報告とさせていただきます。